

## 早川正巳先生のご逝去を悼む



本学会名誉会員の早川正巳先生は、平成15年11月27日逝去されました。享年90歳でした。

早川先生は、昭和13年3月東京帝国大学理学部地震学科をご卒業後、参謀本部陸地測量部（現国土地理院）、大阪管区気象台、名古屋大学理学部を経て、昭和18年4月通産省地質調査所に入所されました。以後、昭和45年3月同所を退官されるまで、27年間の長きにわたり物理探査分野の調査研究にたずさわりの進歩、発展に尽力されました。

先生は、昭和45年4月から東海大学海洋学部に移られ、平成元年3月同大学を定年退職されるまで、19年間の間、教育と研究に情熱を注がれました。この間に多くの優秀な学生を社会に送り出され、現在彼らがそれぞれの分野の第一線で活躍していることは、多くの人々が一致して認めるところです。

早川先生のご研究は、地震、火山、地熱、物理探査など、地球物理学の基礎と応用を含む広い分野にわたっているのが著しい特徴です。先生が、6つの学会（物理探査学会、日本地熱調査会、石油技術協会、日本火山学会、日本地熱学会、日本地質学会）の名誉会員に推挙されたことがそのことを裏付けております。先生の多くの研究業績の中でもひとときわ光るのは、日本における地熱開発

の調査研究です。この分野における先駆者として、広く国内外で指導的役割を果たしてこられました。岩手県松川における地熱開発の成功はその一例です。さらに日本における火山の研究では、昭和新山の地質、地球物理、地球化学的な総合的研究、伊豆大島三原山火山の噴火に伴う重力変化の研究などで、高い評価を得ておられます。地震学の分野では、前兆現象としての地震波速度の時間的変化に関する独創的な研究があります。この研究のアイデアは、昭和40年から始まった日本の地震予知研究計画にも採り入れられました。先生は、東海大学に移られてからは地震や火山活動の原動力の問題を、地球熱学的観点から総合化する研究に力を注がれておりました。さらに大学を退職された後も、研究への情熱と探究心は、ひと時もおとろえることはありませんでした。

早川先生のもう一つの偉大な業績として忘れることの出来ないものは、国際火山、地熱両学会でのご活躍、さらには国連傘下のユネスコなど諸機関での国際的活動です。たとえば、発展途上国を対象とした、沿海鉱物資源探査や地熱開発のための技術者研修コースを立ち上げ、先生自から講師として教壇に立ち、多くの専門家を育ててこられました。先生が国際協力の分野でまかれた種子は、東南アジアをはじめ多くの国々で着実に花開きつつあります。

いま21世紀を迎え、国内外共に幾多の難問が山積しており、学問の世界もまたその例外ではありません。このような時期に、先生のような立派な指導者を失ったことは、広く地球科学界にとって誠に痛恨の極みといわざるを得ません。

しかしながら、先生が情熱を傾けて育ててこられた多くの人材が、先生の教えを守り、それぞれの分野で先生の遺志を継いで活躍されるであろうことを確信しております。

ここに謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。

（飯塚 進）